

審判上の確認事項

大会審判委員長

1. 選手の健康と安全に配慮して、テクニカルタイムアウトは、給水のためのタイムアウトとして適用し、選手に給水をさせなければならない。
2. タイムアウトの要求はハンドシグナルとともに言葉を用いて明確に示す。
3. 選手交代は、交代選手がコートに入る準備をしてサブスティチューションゾーンに入ることにより要求したことになる。また、複数の交代を同時に要求する場合は、すべての交代選手が同時にサブスティチューションゾーンに入らなければならない。
4. 試合中、ボールを使用しての練習が認められるのは、セット間においてエンド・ライン後方のフリーゾーンのみとする。
5. 監督は、試合を妨害しない限り、フリーゾーン内ならばアタックラインの延長線からウォーム・アップ・エリアまでの範囲内において、一時的にベンチを離れてコート上の選手に指示を与えても良い。ただし、ラリー中はベンチに座らなければならない。
6. 本大会は、ワン・ボール・システムで行う。したがって、速やかにサーバーへボールを送ること。
7. ワイピングについて
 - (1) 試合中は、コート内の選手が自分で用意したタオルで速やかに拭く。
 - (2) 公式練習終了後、タイムアウト及び、セット間には、選手またはチームスタッフがモップを使用してコート内とサービス・ゾーンのワイピングを行う。
8. ベンチスタッフの服装について
 - (1) ベンチスタッフはジャケットを着用するか、チームで統一された服装でなければならない。
 - (2) 監督がジャケットを着用し、その他のチームスタッフが統一された服装であれば許可される。
 - (3) 統一された服装であっても、タンクトップのような形状のシャツ類、短パン、ハーフパンツは許可されない。
 - (4) 試合中、左胸部に規定の監督、コーチ、マネージャー章をそれぞれ着けなければならない。
 - (5) 小学生がベンチスタッフとして入る場合、短パン、Tシャツを認める。Tシャツの色は他のベンチスタッフと違ってよい。

9. ラインジャッジ・点示・記録員について

- (1) ラインジャッジ（4名）と点示（2～4名）は、下記チームの選手で行う。選手のみで不足する場合、点示はチームのスタッフや保護者で行うことができる。
- (2) 記録員（1名）は、下記チームのチームスタッフまたは保護者で行う。

第1試合	第2試合の2チームで行う。
第2試合	第1試合の2チームで行う。
第3試合（親善試合）	第1試合、第2試合の勝った2チームで行う。
第4試合（準決勝）	第3試合の2チームで行う。
第5試合（決勝）	第4試合で負けた2チームで行う。

10. 新型コロナウイルス感染症対策について

- (1) 審判（ラインジャッジ・点示・記録員を含む）はマスクを着用する。
- (2) 主審・副審ともに電子ホイッスルを使用する。
- (3) 記録員には筆記具を持たせる。
- (4) 監督・キャプテンのサイン用ペンは、チームで準備する。
- (5) ラインジャッジフラッグは、チーム所有のものを使用してよい。
- (6) ラインジャッジ・点示・記録員を務めた者は、試合終了後、ラインジャッジフラッグ・得点板・椅子等を消毒する。

11. セット間のコートチェンジ手順

- (1) セット終了の主審のホイッスルで、コート内の選手はエンドラインに整列する。
- (2) ベンチスタッフは、直ちに使用したベンチを消毒する。（15秒程度時間を確保）ベンチの消毒を完了したら、チームは副審に合図を送る。
- (3) 両ベンチが消毒を完了したら、主審のコートチェンジホイッスル（ここからセット間の3分間のインターバルに入る）により、選手全員は、支柱の外側を通過して交代する。
- (4) ベンチスタッフと荷物を運ぶ控え選手は必ずマスクを着用し、記録席前で接触・近接を避けながら交代する。（後部にスペースがあれば、記録席後部も使用可能）